

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

574-325

事務事業名	松尾浄化管理センター増改築更新事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	水道環境部	課等名	浄化管理センター		包含する細々目	12	2	1	2	10	1	347,800
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり											
施策	45 居住基盤の向上											
実施区分	継続	会計	下水道	環境調整会議	不要	関連計画 条例等						下水道法、改定第4次飯田市下水道整備基本計画
		事業期間	6	年度～	25	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	下水処理施設	下水処理能力(*/日)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			44400	52000		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
老朽化した設備の機能回復及び、処理人口の増加に対応する処理能力の確保	現下水処理能力(44400) / 計画下水処理能力(52000) × 100 = (%)	18目標	85	最終目標	100	25
		18実績	85	19目標	85	↑
		23目標	85	23実績		最終目標達成年度
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	松尾浄化管理センターについては供用開始後29年以上経過し、各施設や設備機器に老朽化による機能低下が見られようになった。また、面整備による汚水処理施設の増設もあるので、機能回復及び放流水水質基準確保のために計画的に増改築更新を行う事業です。	18年度の実績 ・沈砂池設備の機械電気設備の改築更新 ・汚水ポンプ1～3号の改築更新 ・消化ガスの有効利用設備の検討 ・脱水汚泥外部搬出施設及び汚泥棟脱臭設備の設計	全体計画に対する進捗率(金額ベース:%)	84.9
	19年度計画 ・消化ガスの有効利用設備の実施設計 ・脱水汚泥外部搬出施設の建設 ・汚泥処理施設脱臭設備更新	全体計画に対する進捗率(金額ベース:%)	88.2	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源	157,300	191,100
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債	141,500	141,000
	その他		
一般財源	24,200	15,700	
事業費計(A)	323,000	347,800	
人件費	正規職員所要時間	18年度 2,880	19年度 2,880
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	10,299	10,299
	トータルコストA+B	333,299	358,099

特定財源内訳や補足事項	国庫補助(公共下水道事業 機能高度化事業)
-------------	-----------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	生活・事業に必要な基盤が整う	居住基盤の満足度	現状値	78.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
・設備機器の耐用年数が過ぎており、年々補修費が増加してきた。また、皆水洗化計画に基づく計画的な処理能力の向上も考慮しながらの根本的な改修が必要となったため。	・機器の老朽化が年々進んでおり、早期の増改築更新が急がれている。 ・CO2削減問題やエネルギー資源への取り組みの観点から余剰消化ガスの有効利用の指導が国、県からあった。	・地元市民からは臭気の発生や降雨時の汚水の流出などに対する危惧、消化ガスの有効利用の検討など様々な意見や要望があります。 ・議会からは汚水のイメージを払拭し、安心してもらえるよう地域の環境整備を推進することや施設の耐用年数等の延命を工夫するようとの意見があった。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がない (その理由)	
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		法的に定められた全体計画である。	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		安定した処理能力が確保されることにより、水質基準が遵守され、居住基盤の向上につながる。	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		下水道法、水質汚濁防止法により地方自治体が責任を持つ必要がある。	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)	
					施設改修に要する費用は使用量に添加されており妥当である。	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 ・機器の改良が進んでおり、増改築更新時には最新機器の導入を進める。 ・汚泥消化槽より発生する余剰メタンガスを有効利用した発電システムの導入を行い、21年度より発電を開始し、電気料金とCO2の削減を図る。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	・工事中の臭気対策 ・メタンガス中のシロキサン除去対策 ・発電設備の排熱利用の検討

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	